

# Hand in Hand

海を渡る鳥は、波間を漂う流木に憩うという。離婚——それは旅の半ばの一つの出来事。  
新たな旅立ちをした女たちはいま手を取り合い、女であるがゆえの偏見と差別に向きあう。  
ハンド・イン・ハンドは、生きやすい社会をめざし支えあう女たちの、流木である。

Vol.228

## 〔児童扶養手当はようになる?〕



- 4月から、児童扶養手当の国庫負担が3/4から1/3になりました。3月末に国会で「三位一体改革法案」が通ってしまったからです。私の所属する民主党はもちろん反対しました。地方へ財源と権限を移譲して、地方自治の裁量を広げ、本当の意味で地方分権が進むなら、国民の声が反映した満足のいく行政ができ、ひいては国民がゆとりと豊かさを実感できる社会になるでしょう。ところが、今回の三位一体改革は(そもそも名前からして中身をわからせないようにしています)、地方と国の負担割合を変えるという、国の歳出削減にのみ重点が置かれたものでした。
- この改革で、児童扶養手当が対象になったわけですが、財政はどの市区町村もひっ迫していますから、地方の負担分が1/4から2/3に増加すると大変厳しい。もちろん、財源委譲もあったわけですが、地方行政の自由裁量を高めるため、他分野の政策を進めようとする、児童扶養手当の受給者を減らしたいというインセンティブが働くのではないかと心配しています。実際、母子家庭の母子が受けていた、船橋市や小田原市などが行っていた各市独自の児童手当などがなくなっているのです。また、児童扶養手当の現況届を出す時に、窓口での審査がこれまで以上に厳しくなることが予想されます。
- そこで、3月30日の厚生労働委員会で、私は川崎二郎厚生労働大臣に質問をし、次のように大臣から言質をとりました。「(国の負担が削減されたからといって、児童扶養手当の)財源についてはきちっと手当をするという中で合意をしたもの。この政策が落ちて、少なくなっていくということであってはならないと思っています」。また、現況届で「(米や野菜をもらっているか、前夫が家に来ているかなど)プライバシーを踏みにじるようなことがあってはならない」とも大臣は言っています。面接交渉が子どもにとって大切だとも認識してもらいました。
- そして最も重要なのは、2年後に迫った改正です。5年間の受給後は児童扶養手当を5割減額するという改正案が出され、それが一人歩きしていますが、この法案の質疑で、当時の坂口厚労大臣は「その減額が1%なのか10%なのか20%なのかということは、この5年間で、どれだけ母子家庭のお母さんたちがちゃんと就業できて収入もあがり、子どもたちを育てられるような環境になるかということを見てからだ」と答弁していますし、今回の川崎大臣もそう言っています。
- でも、残念なことに、この間の国の就労支援は功を奏していません。離別母子家庭の一人あたり年収は61万円にしか過ぎません。
- これで児童扶養手当を削るなんてできるわけがありません。必死で働いても思うような収入を得られない母子家庭の母のために、国は10割負担で抜本的な就労支援をすべき時だと説いたのですが、こちらは確実な答弁をもらえませんでした。これからも全力でがんばりますので、皆さんも気持ちを強く持ってくださいね。(円より子)

ゆとりゆつと  
五月の空に  
憩うように  
遊ぼう  
自分らしく  
生きて  
その生命  
大事に  
のびやかに  
生まよう

# わかりにくい『離婚時の年金分割制度』

「2008年4月からは 夫の年金が1/2もらえると思っていたのに…」

## ——「熟年離婚110番」報告——

2007年4月1日から『離婚時の年金分割制度』が導入されると、さかんに新聞やテレビ等で報道されています。でも、その内容はわかりにくくて必ずしも正確に伝えられているとは言えず、女性たちにも誤解されている部分が多いように思われます。

ハンド・イン・ハンドの会が毎土曜日の午後に開設している「離婚110番」に寄せられる電話相談でも、最近は「2007年まで待てばいいのですか」「2008年になったら夫の年金半分もらえるんですね」といった問い合わせが多くなっています。

「2008年4月からは夫の年金が自動的に半分もらえるようになると誤解している人が多い」というのが私の実感です。そこで3月16日の参議院・厚生労働委員会で、川崎二郎・厚労大臣にこの点を指摘&質問し、制度の内容をきちんと確認すると同時に「社会に誤解があるのは事実。制度の内容をもう少ししっかりと詰めた上で、きちんとPRしていく」という答弁をいただいたことをご報告します。

でも、政府のやることをただ待っているのではなく、離婚の悩みを抱えている女性たちに少しでも早く正確な情報を伝えたいという思いが高まり、3月中に、「熟年離婚と年金」というテーマで公開講座を開きました[写真]。それと同時に、特設の電話相談「熟年離婚110番」を開設。年金だけでなく、熟年夫婦の抱える悩みや問題についての相談を広く受け付けました。

ここでは、主に電話相談に寄せられた声の内容と分析結果をご報告して、よくありがちな『離婚時の年金分割制度』への誤解の実態と、正しく理解するためのポイントをお伝えしますね。(円より子)



特設の電話相談「熟年離婚110番」は、3月25日(土)13:00~20:00に4台の電話を開設して行いました。

そのお報せは、ホームページやこの会報誌だけでなく、朝日新聞、読売新聞、日経新聞、産経新聞、東京新聞と5紙に掲載されましたので、実は「4台の電話で対応が間に合うかしら」と心配していました。というのは、前回の特設電話相談では10時間で120件のご相談があり、用意した電話が鳴りっぱなしだったからです。

ところが今回、相談件数は41件に留まりました。原因はいくつか考えられますが、ひとつは土曜日の午後という時間帯だったため、家に家族がいて電話がかけにくい状況だったことが想像できます。夕方の買い物や夕食準備の時間帯には、パタッと電話が鳴り止みました。また、新聞への掲載内容の大半が「公開講座」のお報せに重点を置いた内容で、タイトルにもそれが反映され、電話相談は記事の中に埋没するか、または触れられていませんでした。残念です。

相談時間帯、告知の方法等、次回はこの教訓を生かして工夫をし、みなさんが電話相談を利用しやすい形を考えたいと思います。

## ■相談者は60代がトップ

全41件のうち、当事者の女性からは36件。このうち当日2回かけてきた方が2人いましたので、女性の相談者34人です。この方たちについて集計し、分析しました。

相談者はやはり「熟年」世代が主で、60代が14人(41.2%)とトップ、50代が12人(35.3%)、70代が4人(11.8%)と、50代以上が31人と91.2%を占めました。これは想像に過ぎませんが、いまの若い世代(40代くらいまで?)はインターネットを活用して、似た境遇の仲間との情報交換やメール相談が比較的しやすくなっているのではないのでしょうか。それがやや苦手な50代以上の世代に、もっと情報が伝わるよう考えたり、相談の窓口を用意したり、ということが大切かもしれません。

## ■半数近くが既に年金を受給

妻が加入している(していた)年金の種類は、3号被保険のみが19人(55.9%)と過半数を占め、厚生年金と3号被保険が7人(20.6%)、厚生年金のみが4人

(11.8%)、国民年金と3号被保険が2人(5.9%)と続きます。

既に年金を受給している人も14人(41.2%)いて、厚生年金を受給している人は5人(14.7%)、多くが老齢基礎年金(8人、23.5%)でした。

受給している年金月額、不明が6人と多かったのですが、わかっている人も、30,000円、45,000円、60,000円、90,000円、100,000円、一番多い人で12万円であり、ほとんどが生活費になるとは言えない額でした。

夫が加入している(していた)年金の種類は、厚生年金が26人(76.5%)、共済年金が5人(14.7%)、厚生年金と国民年金が2人(5.9%)と、妻と比べ安定していると言えます。

夫も既に年金を受給している人が15人(44.1%)いて、厚生年金が13人(38.2%)、共済年金が2人(5.9%)でした。受給している年金月額は30万円以上が4人(26.7%)、20万～25万円未満が3人(20.0%)、10万～15万円未満と15万～20万円未満が2人(13.3%)、25万～30万円未満が1人(6.7%)と、やはり妻より高額でした。

## ■知りたいことは、やはり年金分割制度

相談内容は、全員が「法律、手続き等について知りたい」(34人、100.0%)で、「経済的な不安」(28人、82.4%)を反映して、「財産分与について」が31人(91.2%)、その中でも「年金分割制度について」が24人(70.6%)、とやはり多い。「離婚の方法(弁護士、調停、裁判等)」が15人(44.1%)、「慰謝料」と「住居」、「健康について」が12人(35.3%)と続き、離婚後の生

## ◆相談内容(複数回答)

回答	件数	%
経済的な不安	28	82.35
子どもについて	4	11.76
健康について	12	35.29
住居について	12	35.29
離婚後の夫の恋愛・再婚について	0	0.00
離婚後の妻の恋愛・再婚について	0	0.00
夫との関係について	5	14.71
法律、手続きその他について知りたい	34	100.00
1)調停、審判、裁判、公正証書、弁護士等	15	44.12
2)財産分与	31	91.18
年金分割について	24	70.59
3)慰謝料	12	35.29
4)婚姻費用分担	8	23.53
5)親権	0	0.00
6)養育費	2	5.88
7)面接交渉	0	0.00
8)行政について	3	8.82
9)その他法律手続き等	4	11.76
その他	3	8.82
無回答	0	0.00
回答総数	197	579.41

活に対しての不安とそれを確保しようとする女性の姿が伺えます。

## ■年金分割制度への多い誤解

年金分割制度について社会保険庁等で調べて知っている人は4人(11.8%)だけで、「知識がないので知りたい」人が8人(23.5%)と2008年4月から自動的に夫の年金を半分もらえる等「誤解している」人の11人(32.4%)を合わせると過半数いました。

相談員の「2008年4月1日以降の第3号被保険者の期間のみ自動的に1/2」という説明に、「えーっ、半分もらえるんじゃないのー」という落胆の声。そして「2007年4月1日からは、夫の合意や調停、審判、裁判等で取り決めれば、最大1/2まではもらえるようにな

## ◎公開講座「熟年離婚と年金」の会場風景／3月21日(火・祝日)13:30～16:00◎

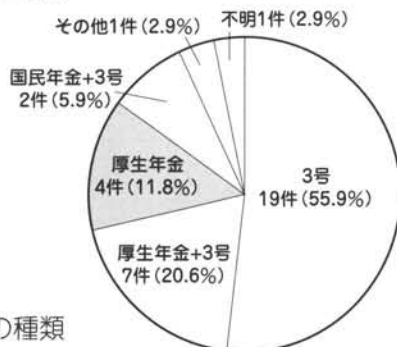


講師にお迎えした袖井孝子・お茶の水女子大学名誉教授(上右)に「熟年離婚と変わる年金制度について」、精神科医の吉川武彦・中部学院大学教授(上左)に「離婚前後の精神的ストレスとそのケアについて」というテーマでお話をいただいた。お話に続く質問タイムには、参加者から現実抱えている問題に即した真剣な問いかけが続いた。

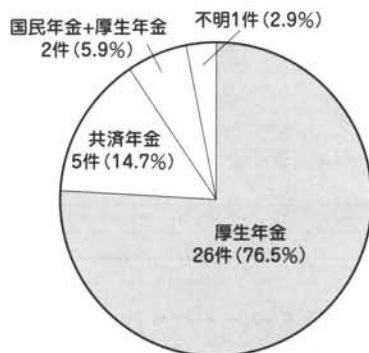
左の写真は、開会の挨拶をするハンド・イン・ハンドの会 円より子代表。



## ◆妻の年金の種類



## ◆夫の年金の種類



りますよ」の説明に、少しは安心された人、「よく考えてみます」と再考しようとする人、「夫はうんといわないだろうな」と考え込む人と、反応は多様でした。

また、「年金を既にもらっている身には、2008年は関係ないんですね」と、がっかりされた人もいました。

## ■離婚を考える原因は「夫の不貞」と「夫の性格」

離婚を考える原因は、やはり「夫の不貞」が14人(41.2%)とトップ。「夫の経済力の無さ、経済観念の違い」と「夫の借金」が各5人(14.7%)と、経済的な問題もあります。

また、「夫の性格」11人(32.4%)が2位で、「価値観、人生目標が違う」と「夫の暴力」が各7人(20.6%)、「夫が家庭を顧みない」と「相性が悪い」も各5人(14.7%)

いました。「定年後一緒に時間が増え、性格の不一致を考え始めた」という人もいて、今回、長年連れ添った夫との性格の不一致に悩む女性が多いことに驚きました。

## ■なかなか離婚に踏み出せない熟年女性

夫婦の状態をみると、「別居中」が13人(38.2%)、「夫が単身赴任」が3人(8.8%)、「家庭内別居」4人(11.8%)と、6割近くがあまりうまくいきません。

離婚話についても、「妻から」が12件(35.3%)、「夫から」が10件(29.4%)、「双方」が3件(8.8%)と7割以上の夫婦の間で離婚話が出ています。

ところが、「離婚したいが配偶者が同意しない」は8.8%、「離婚に同意、条件について話し合い中」は14.7%に過ぎません。「離婚すべきか思い悩んでいる」が47.1%「ただ何となく鬱屈した思いを吐き出したい」が38.2%、「離婚を言い出されて困っている」が26.5%と高く、経済的な不安や離婚後の住居の問題を抱え、なかなか離婚に踏み出せないでいます。

## ■年金分割制度の周知を

今回、電話をかけてきた女性の76.5%は、生活費をもらっていました。離婚を思い悩んでいても、今の安定した生活を失うのは怖い。離婚後の経済や住居を考えると不安で、離婚に際して財産分与や慰謝料等、離婚の条件をきちんと取り決め、その履行を確保したいと思う。特に年金分割について取り決めたくて、情報がほしくてかけてきた熟年女性たち。そして、誤解していたため落胆した女性たち。

電話をかけてきた人たちの何千倍、何万倍の女性たちが2008年4月からの年金分割を待ちわびているのではないのでしょうか。厚生労働省と社会保険庁に、年金分割制度についてのわかりやすい説明とその周知を望みます。

### ◎ 誤解していた女性たちの声をご紹介します ◎

- 「2008年から1/2貰えると思った、財産分与(家1軒)と年金分割できればすぐにでも別れたい」
- 「2008年からの分割を誤解していて、がっかりした。判例が出るまで待ちたい」
- 「年金分割2年後まで待てない」
- 「年金について社会保険事務所に聞いたが、2007年になってから聞きに來いと言われた」
- 「夫が2007年の前に離婚を成立させようとしている。制度を悪用する者がいることを知ってほしい」
- 「弁護士に年金分割について相談しても、よくわからないと言う、厚生年金基金は分割できるか」



### ◎ 『離婚時の年金分割制度』のポイントはこちら ◎

- 「2007年4月1日からは、夫の合意や調停、審判、裁判等で取り決めれば、最大1/2まではもらえる」。つまり、今までと同じ。調停などで夫と合意できた場合はもらえるが、合意できなければもらえない。
- 「自動的」に1/2に分割されるのは、2008年4月1日以降に妻が第3号被保険者(専業主婦)であった期間分のみ。たとえば、2010年4月に離婚したら、2008年4月から2010年4月の2年間の婚姻期間の1/2のみが「自動的」にもらえる。2008年4月以前の離婚なら、この部分はなし。



## 7月29日(土)～30日(日)

知りたいこと、語りたいこと、大募集!!

### みなさんの体験談を通じて 知恵と気持ちの交換を!!

毎年恒例の夏合宿を1泊2日で行います。週末を利用して、久しぶりの仲間と旧交を温めるもよし、新しい仲間と知り合ってネットワークを広げるもよし。一日だけの参加も、お子さん連れも大歓迎。シングルファーザーも臆せずご参加ください。近くは溪谷や森に囲まれ、早朝の散歩でリフレッシュできること間違いなし。夜を徹しての(?)井戸端会議で、ストレスを発散するのもいいですね!

そして、なんといっても仲間の体験談や口コミ情報ほど頼りになるものはありません。たとえば右の囲みの「老後の一人住まい」に関するお便りなどは、今後の人生設計の参考になりませんか? もしも今、何か悩みがあるのなら、体験者のお話から、きっとヒントや新たな一歩のきっかけが見つかると思います。

あなたがいま一番気になっていること、知りたいこと、お教えてください。あるいは逆に、「これならみなさんに話せる・伝えたい」ということがあれば、それをぜひ。いずれも下記のハンド事務局宛てに、6月始めまでをめぐにお知らせください。

寄せられた皆さんの声・ご意見を参考に、知恵と気持ちを持ち寄って、それを生かせる合宿プログラムを作れるといいなと考えています。

- ▶会場: 国立女性教育会館(埼玉県嵐山町)  
東武東上線「武蔵嵐山駅」下車徒歩15分  
▶定員: 大人35名、子ども10名  
▶参加費4,000円程度(1日参加2,000円)  
子どもは保険料込3,000円(1日参加1,500円)  
いずれも宿泊費・懇親会費込み。

- ※食費、交通費は別途、個人でご負担下さい。  
※ご意見・お申し込み・お問い合わせは下記。  
TEL 03-3261-1835  
fax 03-3261-1836  
nojiri@kazoku-mondai.co.jp



### ハンドの会・香川県のお世話役 さんの近況報告より

お買い得の古マンションが売りに出た、と急に連絡をもらって、すぐ購入し、18年間住んだ家賃7万円の借家から引越しました。大都市では考えられないと思いますが、4DKが中級車1台分くらいの値段。ローンを組まないですみました。仕事さえあれば、地方暮らしの方が何かと楽だと思います。家賃補助カットによる減収や、共益費、積立金、駐車場、固定資産税などの負担増を入れても、月々の負担は随分軽くなりました。

一人暮らしの年寄りには、なかなか家を貸してくれないと聞くので、あのまま借家住まいだと、7万円の家賃が払えなくなる定年後が心配だったので、とりあえず一安心。思ったほど騒音は気にならず、一戸建の時より住みごこちは快適です。

それにしても引越は疲れました。45リットル入りのごみ袋50袋分の品物と机、ベッドなど、かなりの家具を処分しましたが、残った荷物は4トントラック2台分。全てを片付けるのに、15時間労働で10日かかりました。あまり年をとってから引越しをすると命を縮めそうな気がします。

定年10年前に引越せて、幸運でした。会合が自宅でできるかもしれません。

### 弁護士二一〇番 財産分与と年金分与



〈回答者〉  
弁護士 竹川幸子  
TEL 06-6339-1111

Q

58歳の専業主婦。59歳の夫とは、結婚34年になります。子育てに追われていた間は気になりませんでした。30歳の娘と27歳の息子が独立した数年前から、夫との生活はギクシャクし始め、夫の一挙一動がどうにも我慢できなくなってきました。昨年、夫が単身赴任したのを機に、社宅を出て実家で暮らしています。この年末に定年を迎えて赴任先から戻って来る夫とは、また一緒に暮らせるとは到底思えず、離婚したいのですが、生活費を即刻ストップされそう、切り出しがねています。ただ、夫は定年後に連絡がとれなくなる可能性が大きく、今のうちに財産分割などをしておかないと、収入基盤のない離婚後の生活が不安です。私から離婚を迫った場合でも、財産の半分はもらえますか? また、来年の4月からは離婚しても夫の年金の半分をもらえるか聞きましたが、その前に離婚するとまったくもらえないのですか?

A

まず財産分与は、婚姻中に2人で協力して得た財産を精算する制度です。から、どちらが離婚を要求したかというところは関係ありません。2人で協力して得た財産であればいいのです。別居後は原則として財産の形成に貢献したということはないので、同居中に形成した財産

のみを精算することになります。親から贈与を受けたり、相続した財産や婚姻前の財産も対象外です。また、財産の形は問いません。不動産預金・株式・退職金請求権・年齢によつては年金等、同居中に協力して形成したものは全て精算の対象です。

ただし、年金は、来年4月以降の離婚なら、夫が分割を合意すれば年金納付記録が分割され、その後は分割された人多くは妻一名義の年金として直接支払われるのですが、それ以前の離婚については、納付記録の分割は出来ませんので、夫が受給した中から夫が送金するか或いは一括で払うということになります。すでに年金を受給されているケースでは、年金の分与を上記のような形で命じている判例があります。また、年金納付記録の分割は厚生年金であれば報酬比例部分だけです。上限が半分で、必ず半分というものでもありません。

なお、離婚を切り出すと生活費の送金が止められるかもと心配されていますが、離婚までの生活費については、もし夫に収入があるのに止められたら、婚姻費用の分担の調停を申立てれば原則として支払いが命じられます。例外的に、別居の責任が貴女にある場合には認められない可能性がありますので、一度弁護士に相談されることを勧めます。

# 《家計簿公開》

## 癌体質には保健で備えましたが、 老々介護への備えはどのようにすれば…？

第158号 東京都 K・Sさん



[家族構成]

私 55歳(契約社員&amp;在宅ワーク)

母 79歳

### 《家計簿内訳・2006年3月分》

#### ★収入★

給料(手取り)	96,000円
その他の収入	160,000円
合計	256,000円

#### ★支出★

食費A(光熱費など含)	50,000円
食費B(外食費・食材費)	30,000円
通信費	15,000円
保険	28,000円
資料代(新聞、本など)	7,000円
事務用品代(インク、紙)	5,000円
交際費	20,000円
交通費(ガソリン代含む)	15,000円
医療費	5,000円
雑費(酒、煙草、犬goods)	20,000円
美容院	3,000円
貯蓄	58,000円
合計	256,000円

### ◎何もいらない、と潔く離婚

離婚してもう30年近くになります。結婚は早く、専門学校を卒業してすぐの20歳のとき。実母との折り合いが悪く、早く家を出たい一心で、高校時代に美術部と一緒に部長・副部長を務めていたボーイフレンドと勢いで一緒になったという感じです。私は3人兄弟で、兄と妹に挟まれた真中の子ですから、さして反対もなくゴールインしました。

夫は地元の酒屋の長男でしたが、結婚当初は会社勤めをしており、婚家とはスープの冷めない距離で、夫婦共稼ぎでのスタートでした。ところが、これが甘かった。半年後に義父が倒れ、義母は身体の弱いこともあって、あれよあれよという間に同居を余儀なくされ、夫も会社勤めを辞めて当然のように家業を継ぐことになったのです。

長男の嫁である私が親の看病をし、家の中のことも商売を手伝うのもあたりまえなんて、なんで私までそう思い込んだのでしょうか。そういう時代だったのかも、私が甘ちゃんだったのかもしれませんが。いずれは資格もとろうと張り切っていた会計事務所勤めも辞めて、よき長男の嫁を演じることになりました。

婚家には、まだ嫁いでいない夫の姉も妹もいましたが、家事も親の介護も私にまかせきり。なまじ私が経理を少しかじっていたため、店の経理まで手伝うことになりました。気が強く、泣き言は嫌いな私の性格も災いしました。ひたすら義父の世話をし、家事をこなし、夜中に電卓を叩く毎日でした。

それでも、夫がしっかり稼業を努め、私をフォローしようとしてくれたら、少しは違っていたかもしれません。もともと線が弱く、競ったり、言い争ったりすることが大の苦手。つきあっているときはそれが紳士的で大人びた態度に感じられたのですが、すぐに、ただ現実から逃避しているだけなのだとわかりました。案の定、彼にグチの予先を向けがちな私を避けるように家を空けることが多くなり、当然、商売も人まかせになって、「Sちゃんがしっかり

しているから僕はいなくても大丈夫」と言い出す始末。周りからは「あなたがキツイから、旦那が家に寄りつかない」と言われ、腹が立つやら悔しいやら。では私が、ただ夫に頼って泣き暮らしていたら、事態は好転したとでも言うのでしょうか。きっと商売は傾き、夫家族は路頭に迷っていたに違いありません。

救いは、病気で臥せている義父だけでした。いつも私に感謝してくれ、「Sちゃんがいなかったら、この家はつぶれてしまう」と言ってくれました。その義父が3年たって亡くなった時、これで私の役目は終わった、離婚してこの家を出よう、と決心したのです。でも、神様のいたずらであるんですね。葬儀のドタバタの中で今度は義母が倒れ、出て行くタイミングを逃してしまったのです。

その後は、もう、意地だけでした。今になってみれば、自分でもバカだったと思いますが、「石の上にも3年」と念仏のように心の中で唱えて、なんの根拠もなく、あと3年だけ我慢しよう、完璧な嫁をやって姑を看取り、誰からも後ろ指を差されない状態で離婚しよう、と固く決心したのです。義母は私の夫に甘いだけの人でしたが、夫が病床の母の面倒をみるわけもなく、あいかわらずフラフラ歩いては趣味の絵に逃げていましたから、なさぬ仲の私の手を借りなければならぬのは不憫でもありました。そして、1年近くの入院の後、病院で息を引き取りました。

それから3ヶ月ほどの間に、粛々と身辺整理をし、実家に戻るつもりはなかったので小さな部屋を借りて、職を探しました。幸いにも、婚家の税理士がふだんの私の仕事ぶりを評価してくれて、内緒で就職を紹介してくれました。こうして、離婚後の生活のあらかたのめどがついてから、「何もいらないから判を押してください」と、離婚届を夫に突きつけました。夫は驚き戸惑いながらも、最後まで一言も争うことなく、黙って涙を流しながら判を押しました。私は自分の言葉通り、嫁いだときに持っていた預金通帳だけを持って、婚家を出て行きました。







## ◎時を経て実家に戻った理由

友人たちは「馬鹿じゃないの。あんなに苦労したんだから、少しは何か貰えばよかったのに」と言いましたが、私自身はさっぱりしたものでした。そんな交渉で、一日でも離婚成立が遅れるのはイヤでしたから。母は世間体を重んじる人ですから、離婚後は実家に戻らず遠く離れたところで一人暮らしをはじめたことに安堵したようです。まだ20歳代後半でしたし、子どももいませんでしたから、OL生活に戻ったような気分で、その後、それなりに安定したバツイチ生活を15年ほど送りました。ローンを組んで中古マンションの部屋も手に入れました。

そんな私が、実家に戻ることになったのは、私が40歳を過ぎた頃、一つ年上の兄が癌を患ったのがきっかけでした。悪性の癌であることを本人には告げず治療を行っていたため、母はだんだん精神的に不安定になり、私がフォローせざるをえなくなったのです。これから年老いていく両親との同居を考え、それまでの私の住居を売り、ローンを精算した残りのお金で実家の2階を私の住まいに改装して移り住みました。

結局、2回の手術と数年間に渡る闘病の末、兄はまだ幼い子どもを2人残して逝きました。そして、その2年後に、今度は父が肺癌を発病して約1年後に息を引き取ったのです。私の家計簿の中で保険料がわりと大きい数字なのは、その体験からきています。それまでに入院特約のつ

た終身保険には入っていましたが、46歳のとき、癌保険を2口、追加で加入しました。妹も乳癌を患った経験があり、家系的に癌体質らしく、もしも私が発病したら金銭的に困ることは目に見えているからです。

## ◎母とは基本的には別生活

そんなわけで、あれほどソリの合わなかった母と、いまは2人暮らしです。小さな軋轢は日々ありますが、1階と2階に分かれて生活していますので、大きな衝突にはいたっていません。私の飼っている室内犬を母は嫌がるので、犬は1階には降ろさないようにしていますし、私の旅行中ですら面倒を見てくれません。

ただ、夕食だけはなるべく一緒に食べようと、月に5万円の食費Aを渡

して材料を用意してもらい、交代で作ったりしていますが、母はこの金額では不満なようです。朝昼の食事はお互い勝手にやっているため、別途、食費Bがかかります。私の晩酌用のビールも、これとは別費用で購入しています。

職場は転々としてきましたが、昔から機械操作に強く、また経理の経験が長いことから、いまはある大手企業の経理セクションに、週2回だけ通う契約社員です。お給料は少なくとも、社員と同等の福利厚生が受けられるのが魅力で、時間拘束も少ないですから、あとの時間はパソコンを使った在宅ワークを請け負っています。こちらの方は月によって仕事量の変動が大きく、収入も月に数万円の時もあれば、数十万円が振り込まれるときもあります。

クライアントは、編集プロダクションとパソコンソフトの製作会社で、仕事の内容はテープ起こし、データ入力、ソフトのバグ(プログラム上の誤り)チェックなど。仕事のやり取りは、ほとんどがFAXかパソコン回線を通じてのことになるので、通信費や事務用品代は必要経費です。2、3年ごとに、仕事用パソコンを新しく買い換える必要がありますし、家の修繕費や税金、車の維持費に備え、収入の多かった月には、なるべく蓄えにまわすようにしています。

晩酌用のビールと煙草(ヘビースモーカーです)、毎月一度のヘアカット代、そして犬のためにかかる費用、これくらいが私の贅沢です。服はほとんどと買わずに、妹のお下がり。肌が弱いので、化粧品も必要なく、かわりに皮膚科通いに若干の費用がかかります。本も、近くの図書館で借りていますし、映画も映画館へ出かけるよりは、自宅のCATVで観たほうが良いタイプで、遊興費や小遣いは、まず必要ありません。

## ◎まだ介護は必要ないけれど…

今後の課題は、やはり母のこと。母には遺族年金と、アパート収入があり、経済的には楽で、叔母や友人たちと買い物や旅行、習い事を楽しんでいます。ただ最近、その友人たちがみな年老いて体が弱り、あまり一緒に外出できなくなって、ストレスがたまっているようです。自分では体が弱いと言いながら、私から見ればいたって元気。お嬢さま育ち

のプライドが邪魔するのが、下町気質のご近所さんとはあまり馴染みがなく、外出する機会が減ったため、気持ちのぶつけどころが私に向いて、まいっています。

近くの公共施設などでの高齢者の集いを勧めても、「あんな年よりくさい集まりはイヤ」とそっぽを向き、かといって一人遊びもできません。私の一挙一動を、子どものときのようにいちいちチェックするので、つい声を荒げてしまい、そんな自分に自己嫌悪を感じる日々です。このまま老々介護に突入していった場合を考えると憂鬱。ボケでもしない限り、絶対に自宅で私が面倒を見る以外は認めない気がするからです。

自分自身が一人になったときの老後に関しては、あまり心配していません。体が動く間は一人で暮らし、いよいよ人様の手を借りなければ生活できないようになったら家とアパートを売り、その費用で医療付きのケアハウスに入るつもりです。

こうやってみると、なんだかギスギスした毎日のようですが、家の中でデスクワークしていると身体がなまり、気持ちも腐るので、毎日ゆっくり時間をかけて犬と散歩を心がけています。デジカメ持参で写真を撮り、それを加工して友人にメールで送ったり、写真を貼り付けた便箋やはがきを作ったり。編物も昔から大好きで、その作品と自作のポストカードを、近所や友人のお店で売ってもらったりもしているんですよ。母も、一緒に散歩してくれるといいんですが、まだ一度も連れ出すことに成功していません。

★人生80年時代に、老々介護は避けられない現実になってきていますね。身体がきかなくなったときのために自宅をバリアフリーに改装する、ご近所や友人の助っ人ネットワークを作る、医療機関や介護人の目安をつけておく、などの実務的なことは、Sさんはお得意そう。長く確執のあったお母様と気持ちを寄り添わせるのは難しいかもしれませんが、お母様の習い事を一緒に体験してみる、熱中なさっている姿を写真に撮ってさし上げるといったようなところから始めてみてはいかがでしょうか。(円より子)



